

WINTER DOLPO 122 Days ～ 極寒のドルポ越冬 122 日間の記録 ～

ネパール探求家、美容師
稲葉香

私は、河口慧海師の足跡を個人的に辿りはじめ、最終的に河口慧海プロジェクト登山隊長の故大西保隊長との出逢いでドルポに辿りつき、2007年～2016年までに4度にわたってドルポ内部を横断した。それは夏から秋にかけてのベストシーズンだった。夏は高山植物で溢れ、秋の収穫時には黄金に輝くかのような大麦に目を奪われる。さらに、樹木が少ないドルポにも紅葉があり、赤色の草が山肌を染め、そこに太陽の光が射し、色気を感じるほどの美しさに驚き思わず足が止まる。冬、この地はどうなっているのか？ 厳しい環境の中、厳冬期の生活はどうしてるか？

山々はどんな景色を見せてくれるのだろうか？ 気になって仕方がなかった。自分の身体で体感したい、その想いが募るばかり。しかし、なかなか決心ができなかった。それは、資金、自分が経営する美容室、持病（リウマチ）のこと... 等等。

そんな時、2018年ネパール最北西部のフムラ地方の遠征を単独キャラバンで行った。その旅のきっかけは故大西保氏が夢に出てきて、フムラ地方の名も無き湖を地図上に指差したからだ。2週間の無人地帯を含む1ヶ月、ネパール側からのカイラスの展望を果たし、ナラカンカールRピークに登り、夢に出て来た名も無き湖を探した。自分でルートを見出して行ったこの遠征は、数年前から描いていたドルポ越冬決断のきっかけとなった。故大西保氏は、「厳冬のドルポに行きたいなら、お前がまだ知らぬフムラへ単独で行け、これが出来ないと厳冬のドルポには行けない」というメッセージだったと気づいた。そして、このフムラ遠征からの帰国時、全てにおいて覚悟が決まった。貯金ゼロからのスタート、借金覚悟でドルポ越冬4ヶ月の計画をたてた。すると想像もしていなかったほど、多方面からご支援を頂き奇跡のような出発をした。



越冬中、部屋を借りていた家の屋上から。（サルダン村）

***期間：2019年11月11日 ～ 2020年3月11日**

***目的：ドルポ越冬 冬の暮らしのフィールドワーク**

***地域の特徴：**アップードルポに入るには、東西南北に広がる標高5000mの峠を越えないと入れない。点在する村の平均高度は約4,000m。拠点のサルダン村へは、5,000mの峠を2本越えないと入れない。冬は完全に閉ざされてしまう厳しい環境で、チベット文化圏が色濃く残っている。

***越冬の準備**

3ヶ月以上に及ぶドルポでの暮らしは、その間に消費する食料・燃料を調達し、事前に現地保管することが重要だった。それは、私が滞在することで、現地で負担をかけたくなかったからだ。2016年のドルポ横断時、各村で越冬状況を聞いた。その時、シェーゴンパの僧侶が「食料を持って来たら泊まっていいよ」と言った。私はその一言に全てが詰まっていると感じた。

今までに知り合ったドルポの村人とSNSで繋がり数年前から冬に行きたいとアピールしていた。その中でサルダン村のウゲンさん、ポ村の僧侶・タシさんと連絡が取れる。ウゲンさんには出発時のポーターの手配の依頼、タシさんには、食料と燃料を各村へデポしてもらうよう依頼した。しかし、ドルポ内部にいる時は連絡は頻繁にはできない。カトマンズのエージェン트에、ウゲンさんとタシさんを紹介して連絡をしてもらうようお願いする。タシさんとは、夏に連絡が途絶えてしまい、渡航間際までなかった。逆に、ウゲンさんとは出発間際に突然連絡が途絶えて、ポーター手配ができなくなる。一度、全部白紙に戻り、どうしようかと思っていたところ、日本人の知人が2019年9月にドルポトレッキングに行くことが決まり、その隊（Hキャラバン）がお米などの食料、燃料を含む200kgの私の越冬荷物の荷揚げを一緒にしてくれるという、ありがたい流れとなり、キャラバン（馬5頭）で引き受けてくれた。

直前にタシさんと連絡ができた。重複するものを引いて、荷揚げはできたのだが、現場到着後に、調達してもらった食料が多すぎるということがわかった。しかし、チベット国境での購入、運送代、手間のことも考えると申し訳ない思いがあったので、タシさんには言い値を支払った。

***事前に調達した越冬のための物品**

下記の荷物と総合計は約200kgとなり、カッチャル（ウマとロバの混血）5頭（1頭当たりの積重量40～60kg）分を、越冬拠点地のサルダン村に9月に運び上げることができた。Hキャラバン隊には日本で事前に送金しておいて、荷揚げだけではなく、ドゥネイでの物資購入も依頼した。

米=60kg、油=5L、豆のミックス=6kg、小麦=10kg、豆=4kg、砂糖=10kg、灯油=90L

***私の出発時、個人装備はドラムバック4つとザック（合計約90Kg）。**

中身は、食料、衣類、テント、キャンプ用品（ガイドの食料と装備も含む）。厳冬期の長期ということで、日本の山関係の知人が自家製の乾燥野菜を作って送ってくれた。おかげで、越冬中の野菜不足の心配が解消された。

***カトマンズからガイド兼コック=Pankha tamang 1名を雇い、内部ではポーターなしで行動。**

ただし、拠点地への8日間のトレッキングは、ドゥネイでポーター5名を雇い、越冬終了して下山の11日間のトレッキングは、サルダンでポーターが出来る僧侶3名を雇う。

*ドルポでの行動ルート (地図参照)

カトマンズ → ネパールガンジー (夜行バス)
ネパールガンジー → ジュパル (国内線飛行機)
ジュパル → ドゥネイ (乗合車)

- ・青ルート (越冬拠点地サルダンへ/8日間)
11/18 ドゥネイで最終準備して、ポーターと合流
しトレッキング開始!
11/25 バガ・ラ (5,165m)、ランモシェ・ラ
(5,165m) を超えて、8日間でサルダン着!



バガ・ラ (峠) 5165m

・赤ルート (越冬中の行動ルート/83日間)

サルダンを拠点に、食料と燃料を持参して動いた地域

- 11/30~12/9 慧海師ルートの再確認でマゲン・ラ国境へ
- 12/10~29 拠点地サルダンで満月のプジャ、冬のプジャを見学
- 12/30~12/31 シェー山に向かうが、セラ・ラの峠 (5010m) を越えられず、ナムグンゴンパで引き返す。
- 2020/1/1~13 拠点地サルダンで、雪が降り積もる
- 1/14~19 テューカンへ、グレートジャーニーで関野吉晴氏が滞在していた村 (20年前) を探す
- 1/20~21 サルダンで、レスト&準備
- 1/22~30 ニサルで冬の大祭、ロサル (お正月) を見学
- 2/1~2/9 サルダンで下山情報を入手し、3月の下山を2月にはやめる計画へと立て直す
- 2/10~11 テューカンに下山の挨拶に行く
- 2/12~14 下山の準備

・ピンクルート

行く計画を立てていたが、雪の状況などで断念した地域

・緑ルート (ドゥネイへ下山/11日間)

- 2/15 サルダンでポーターが出来る3人の僧侶を雇い出発!
- 2/25 冬ルートでチョイ・ラ (5,058m) を越えて10日間の予定だったが、ドゥで夜から雪が降り積もったため、1日停滞となり11日間で下山!



